

# 死刑廃止のための大道寺幸子・赤堀政夫基金について

生前、多くの死刑囚や獄中者に面会し、励まし、「生きて償う」ことを共に模索し、死刑囚の母として、社会、国際機関、メディアに対して、日本の死刑制度の実態、死刑囚処遇、死刑囚の人権について語り続けてきた大道寺幸子さんが2004年5月に亡くなりました。「死刑制度をなくしたい」「死刑囚の人権は保障されなければならない」という幸子さんの遺志を生かすため、遺された預金を元に、基金が創設され、死刑囚の再審請求等への補助金、死刑囚の表現展の開催と優秀作品の表彰のために使われることになりました。

当初の予定だった10年間に過ぎましたが、冤罪事件の元死刑囚赤堀政夫さんから資金提供の申し出があり、2015年からは「大道寺幸子・赤堀政夫基金」として再出発することになりました。「死刑囚の表現展」へ応募された文芸作品は何冊も出版され、絵画作品は多くの絵画展で紹介され注目を集めてきました。毎年「響かせあおう死刑廃止の声」の集会で、その年の応募作品の講評や展示を行っています。今年はその20回目です。これらの作品が「日本に死刑制度があった時代の記録」となることを願って……。

なお2024年度絵画表現の全応募作品の展示は、昨年同様、松本治一郎記念会館で開催します。

表現展選考委員

## 小田原のどか (おだわら・のどか)

芸術学博士。彫刻家/アーティストとしての活動と並行して、彫刻研究、版元経営、書籍編集、展覧会企画、評論活動を行う。著書に『近代を彫刻/超克する』講談社、『近代を彫刻/超克する一雪国青森編』書肆九十九、『モニュメント原論』青土社がある。

## 香山リカ (かやま・りか)

精神科医。むかわ町国民健康保険穂別診療所副所長。最新刊の著書に『61歳で大学教授やめて、北海道で「へぎ地のお医者さん」はじめました』集英社クリエイティブ、『精神科医はへぎ地医療で“使いもの”になるのか? ~私の転職奮闘記~』星和書店ほか多数。

## 川村湊 (かわむら・みなと)

文芸評論家。法政大学名誉教授。『川村湊自撰集』作品社、『架橋としての文学 日本・朝鮮文学の交差点』法政大学出版局、『熊神-縄文神話を甦らせる』河出書房新社など多数。編著に『サハラの水 正田昭作品集』インパクト出版会などがある。

## 北川フラム (きたがわ・ふらむ)

アートディレクター。アートフロントギャラリー代表。「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」「瀬戸内国際芸術祭」総合ディレクター。主な編著作に『希望の美術・協働の夢 北川フラムの40年』角川学芸出版、『美術は地域をひらく』現代企画室、『越後妻有里山美術紀行』現代企画室。

## 栗原康 (くりはら・やすし)

政治学者、作家。アナキズム研究。著書に『村に火をつけ、白痴になれ 伊藤野枝伝』岩波書店、『大杉栄伝 永遠のアナキズム』KADOKAWA、編著に『伊藤野枝セレクション』『大杉栄セレクション』平凡社など多数。

## 五所純子 (ごしょ・じゅんこ)

文筆家。本年度から選考委員をお願いした。著書に『薬を食う女たち』河出書房新社がある。

## 太田昌国 (おた・まさくに)

民族問題研究・編集者。大道寺幸子さんの甥にあたり、基金の運営委員の一人。著書に『「極私的」六十年代追憶』インパクト出版会、『(脱・国家) 状況論』現代企画室、『増補決定版「拉致」異論』現代書館、『現代日本イデオロギー評註』藤田印刷エクセレントボックスなどがある。

## 2023年の展示作品から



高尾 康司  
「無題」



井上孝紘  
「日本の花・大相撲 (力士取り組み(右上手投げ))」



藤井政安 (旧姓 関口)  
「愛 (なんでも溶かす薬)」



風間博子  
「命一式〇式参の巻」



金川一  
「自画像」



中田典広  
「清水寺」

## 星陵会館ホール

〒100-0014 東京都千代田区永田町2丁目16-2  
03-3581-5650

- 【東京メトロ】  
 ●有楽町線・半蔵門線・南北線 永田町駅6番出口より徒歩3分。  
 ●千代田線 国会議事堂駅5番出口から徒歩5分。  
 ●南北線 溜池山王駅5番出口より徒歩5分。  
 ●銀座線・丸の内線 赤坂見附駅11番出口から徒歩7分。  
 【駐車場なし】

